重点取組分野	令和　4　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①授業公開週間、小中一貫教育ブロックで授業公開し、より分かる授業を研究推進する。②数学科、英語科の少人数指導で基礎基本の定着、習熟度別学習も取り入れる。③授業評価を実施し、授業改善につなげる。④授業研究月間で授業を見合い意見交換し、授業力向上を図る。	①コロナのため授業公開週間は行えなかったが、小中一貫ブロックでの授業研究は再開することができ、情報交換を行った。②数学、英語での少人数指導を行い基礎基本の定着を行った。③授業評価を実施し、授業改善を行った。④授業研究月間で授業を見合い、授業力向上を図った。	B
豊かな心	①朝のあいさつ運動を行い明るく安心できる学校にする。②朝会で生徒が校外行事や職場体験などの報告をし体験を共有する。③GWT活動を行いコミュニケーション力を高め、互いを認め合う関係をつくる。④卒業生を送る会を行い、全校で幸福感を共有し自己肯定感を高める。⑤道徳教育を充実させ、一人ひとりの個性を認め合える学校づくりを行う。⑥校外学習・宿泊学習の見直し・検討、実施を通して、生徒それぞれを理解し、互いを認め合う関係つくるを進める。	①②生徒会を中心に積極的に行うことができた。③④⑤⑥グループワークを中心に相談活動でそれぞれの意見を尊重し、協力してそれぞれの活動を行うことができた。	B
健康教育	①誰もが楽しみながら運動に参加できるよう保健体育科の授業や部活動の改善を図るとともに、体育大会や学年集会を生徒が主体になって運営できるようにする。②主体的に健康な生活を実践することができるよう、健康・安全についての理解を深めるとともに、計画的に健康教育を実施する。	①運動に親しみながら保健体育の授業や部活動に意欲的に参加した。体育大会や学年集会など、生徒が率先して運営することができた。②より健康に生活できるよう、保健委員会を中心とし、消毒や換気などクラスに声をかけて健康・安全についての理解を深めた。	B
地域連携	①地域の方を職業講話の講師として招くことで、地域の教育力を学校の現場に生かしていく。②地域の事業所等で行う職場体験を通じて、実践的コミュニケーション等の社会性の向上を図る。③地域行事への生徒参加を促し、生徒が積極的に関われる環境を作っていく。④50周年記念事業に向けた取組を進める。	①②地域の方々に協力してもらいながらキャリア学習を実施できた。③社会情勢的に生徒たちが地域行事に関わる機会が少なかったので来年度の課題である。④地域と学校で役割分担をしながら進めている。	B
いじめへの対応	①教育相談や月の振り返りを活用し、学校生活の様子を注視することにより、生徒一人ひとりの気持ちの変化や学校生活での不安を把握し、生徒の状況に応じた寄り添った指導や支援ができるようにする。②特性に合わせた適切な支援が行えるように研修を行い、支援体制を確立する。	①個人が抱える思いを教育相談や月の振り返りを活用し、一人ひとりの気持ちの変化や学校生活での不安を把握し、生徒の状況に応じた支援ができるようにした。②特性に応じた適切な支援が行えるように研修を行い、共通理解のもと支援体制を確立した。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①月1回の学年会の中で研修の機会を持ち、学習指導や生徒指導の研究を深める。②企画会を通して各部署との連絡調整を行い、組織の活性化に努める。③持続的に機能する組織を目指すために情報の共有、引き継ぎの徹底を図る。④定時退勤日の設定や部活動指導員の活用などを進める。	①月1回の学年会の中で研修の機会を持ち、学習指導や生徒指導の研究を深めた。②企画会を通して各部署との連絡調整を行い、組織の活性化に努めた。③持続的に機能する組織を目指すために情報の共有、引き継ぎの徹底を図った。④定時退勤日の設定や部活動指導員の活用などを進めた。	B
周年行事への取組	①50周年記念に関し、教員サイドの組織づくりを進め、各担当による企画を進める。 ②50周年記念に関し、生徒会本部を中心に、生徒主体の活動に関わる分野の企画、運営を進める。	①各指導部長が50周年実行委員会に参加し、地域や保護者との連携を行い、それぞれの企画を進めた。②生徒主体の周年行事になるよう、生徒会本部、各委員会が企画・運営を進め、具体的な案が固まった。	A
特別支援教育	①個別の指導計画、教育支援計画を作成により、共通理解を図り、生徒理解に努める。②より多くの職員で情報共有を行い、生徒の現状を把握し、必要に応じて計画の見直しをする。③職員研修会の充実を図り、日々の支援に生かせるよう促す。④特別支援教室の活用を発展させ、「居場所つくり」「学習保障」を進める。	①②個別の指導計画、教育支援計画を作成し、委員会では年2回、全体では年1回、共通理解を図り、計画の見直し及び評価をする機会を作った。③個別の指導計画、教育支援計画の作成方法、生徒理解に関する研修を校内で行った。来年度は外部講師にも依頼したい。④特別支援教育推進員が配当され、週2回の放課後チュータールームを運営した。「居場所つくり」としてスタジオ(別室)を通年で稼働させた。	B

ブロック内評価後の気付き	・小中一貫教育推進ブロックの第1回職員研修会では、ブロックで情報教育(ICT)における児童生徒の情報機器 の利用状況、ICT機器を使った授業の情報交換を行った。またコロナ禍における校外行事の実施状況等の情報交換や中学校新1年生の生徒の情報交換、来年度開催予定のブロック内で同日開催する保護者引取訓練の計画を行った。これらのことより、ブロック内の連携を深めることができた。・月1回行うブロック専任会では、定期的な情報交換により児童生徒指導に有効な情報を共有することができた。
学校関係者評価	毎回の学校運営協議会で学校の現状をお伝えしている。1月の協議会では、学校評価アンケートの集約結果の報告を行った。生徒・保護者から高い評価を得ている「学校が楽しい」「目標に向かって活動できている」についての要因と現状の課題である「相談活動の時間確保」についての話をし、今後の解決方法についてもお伝えした。委員の方からは、様々な問題が取り巻く現代で、地域と学校で協力して子供たちを守っていきたいということ、そして、少しづつではあるが、コロナの制限が緩和し、地域行事などが開催可能になってきたので、以前のように連携を取りながら進めていきたいという言葉をいただいた。

中期取組目標振り返り	「居場所づくり」をテーマとした特別支援教室の運営はチュータールームの取組により成果をあげた。今後は「どこでもスタディ」の周知、取組を進展させたい。特別活動において、生徒会本部、委員会活動を中心とした行事への取組が進展し、生徒の自主的活動が活性化し、互いに認め合い、高めあう良い雰囲気が作られている。特に次年度の50周年に向けた取組が活発に行われた。コロナ過が終息しつつある中、地域との連携も取り戻しつつある。特にキャリア教育における面接官の依頼などは好取組例として今後も続けたい。ICTの活用による授業力向上については今後も研修体制や授業評価アンケートを再整備し、実のある取組にしていく必要性がある。